

科目担当者氏名		科目担当者連絡先 (メールアドレス)	
(ふりがな)	なかの やすと 中野 康人		
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな)	わたなべ つとむ 渡邊 勉	関西学院大学 社会学部	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習 I	KSGa-100715-0	23	

## I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：今年度の社会調査実習では、「学生生活」という受講生にとって身近な話題をテーマにしたこともあり、仮説の設定から質問文の作成、実査、分析、すべてにわたって、積極的な参加がみられた。学生が知りたいと思っている項目と実際に質問する項目の間に、若干の齟齬もあったが、それはそれで操作化の困難さを体験してもらえたものと評価している。データ分析にあたっては、Rを利用することを推奨したが、報告書執筆段階では、EXCELでグラフを作成した班もあり、受講生のスキルに応じた報告結果になった。

## II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：関学生の「学生生活」(意識と行動)
2. 調査の内容/概要：学生生活における、「バイトとお金」「美意識」「充実度」「恋愛事情」について、意識と行動を質問した。
3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：今回の調査実習の実査においては、無作為抽出はおこなっていない。母集団は関西学院大学在校生約2万人のうち、受講生23名が各15票を集めることを目標にして、272票を回収した。
4. 主な調査項目：基本属性(性別、学年、学部、所属団体)、収入、労働時間、服装、休日の活動、充実度、恋愛経験

## III. データ収集の方法と結果

5. データ収集(現地調査)の方法：調査員(受講生)が各自15票を獲得することを目標とした、非無作為抽出による調査票調査。
6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：2010年6月8日～2010年6月17日。関西学院大学上ヶ原キャンパス。調査員23名。
7. 収集したデータの量と質への評価(量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)：無作為抽出ではないので、調査結果の代表性はとぼしい。

## IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：基本的にRを利用して量的な集計を行った。単純集計で概要を把握。クロス表(モザイクグラフ)で変数間の関係を探った。
9. 調査の成果(調査から得られた主な知見など)：性別によってお金に関する行動(バイト、貯蓄など)が異なる。学年毎に美意識の程度が異なる。各種団体に所属していることが必ずしも充実度につながらない。性別によって浮気に対する考え方や行動が異なる。
10. 報告書刊行の予定と概要：社会調査実習Iとして、公表する報告書の刊行予定はなし。

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の\*印の箇所には数字を(\*/\*)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3とご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。